

ヨトウガ

○ 被害と発生生態

山口県では年間2回発生する。蛹で越冬し、4月から羽化する。雑食性でイネ科以外の多くの植物を食害する。9月以降になるとキャベツ、ハクサイ等の露地野菜で増加する。

卵は数十～数百の卵塊で、葉裏に産みつけられる。ふ化後2齢までは集団で摂食する。3齢幼虫期以降は分散して日中は土中や葉陰に潜み、夜間に活動する。

幼虫の表面は平滑で、刺毛はない。体色は、頭部は黄褐色で、胴部は灰黒色、暗褐色、暗緑色などで数多くの小さな黒点がある。老齢幼虫の体長は40～50mmになり、土中で蛹化する。

○ 防除方法

(ア) 耕種・物理的防除

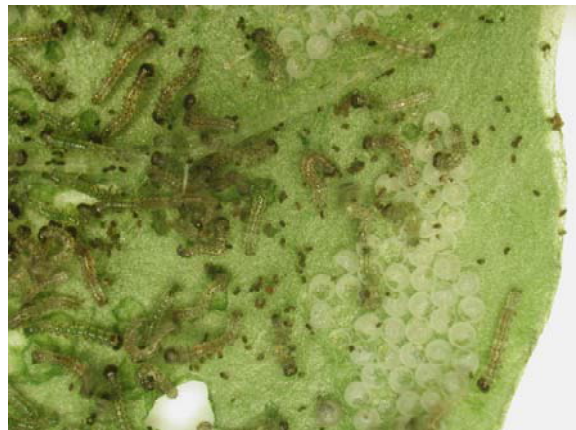
- ・露地栽培では、ベタがけシートや防虫ネット（目合い2mm以下）で作物を被覆する。
- ・若齢幼虫が集団で生息している白変葉や卵塊は見つけ次第除去する。

(イ) 薬剤防除

- ・4齢幼虫以降は土中等に潜り、防除が困難となるので、若齢幼虫期に防除する。



ヨトウガ卵塊



ヨトウガ若齢幼虫



ヨトウガ中齢幼虫



ヨトウガ老齢幼虫

